

1 背景と目的

安来市では、市民がいきいきと安心して生活できる持続可能なまちの実現を目的に、「安来市地域公共交通連携計画」を平成26年3月に策定しました。この計画では、生活を支える公共交通ネットワークの再編を基本的考えに据え、市内の交通体系の再構築、イエローバスの運行やデマンド型（予約型）乗合タクシーなどの新たな移動手段の運行、および鉄道やその他の市域をまたぐ交通との連携等に関して、政策の方針と実現に向けた方策について示しています。また、公共交通を「まちづくり」の重要な要素、社会基盤のひとつとして捉え、安来市都市計画マスタープランに基づき、市内の拠点（安来・広瀬・伯太）を結ぶネットワークを市の骨格を形成する交通（都市連携交通）として位置付けるなど、公共交通の役割について定めています。

今回調査対象とする「安来中海沿岸地域」は、市内の半数以上の住民が暮らし、中心市街地を核に安来市庁舎や医療施設、商業施設などの都市機能が集積するなど、市の中心として重要な役割を担っています。安来市が目指すコンパクトなまちづくりを実現するために、安来中海沿岸地域の拠点機能の強化と周辺ネットワークの構築は、安来市としてまず取り組むべき重要な課題と考えられます。

安来市地域公共交通会議では、平成26年度より、安来中海沿岸地域における公共交通ネットワークや拠点整備等の具体的なあり方を示す「安来中海沿岸地域公共交通ネットワーク計画」の策定に向けて、実証調査を行いながら地域課題や計画の実効性について検証を行ってきました。この「実証調査編」では、「安来中海沿岸地域公共交通ネットワーク計画」の策定に向けて実施した実証調査の内容と結果、さらにはそれを踏まえた、今後、安来中海沿岸地域において取り組むべき課題や検討方針について整理をしています。

2 計画の位置づけと対象地域

「安来中海沿岸地域公共交通ネットワーク計画」および「実証調査編」の位置づけ、対象とする安来中海沿岸地域は下図のようになります（なお、実証調査結果検証の過程から安来中海沿岸地域以外の地域についても一部言及しています）。

安来市地域公共交通連携計画

基本理念:市民がいきいき安心して暮らせる公共交通

安来中海沿岸地域公共交通ネットワーク計画

実証調査編

平成26年度に2ヶ月間実施する実証調査を踏まえて、安来中海沿岸地域において今後取り組むべき課題を整理

計画編

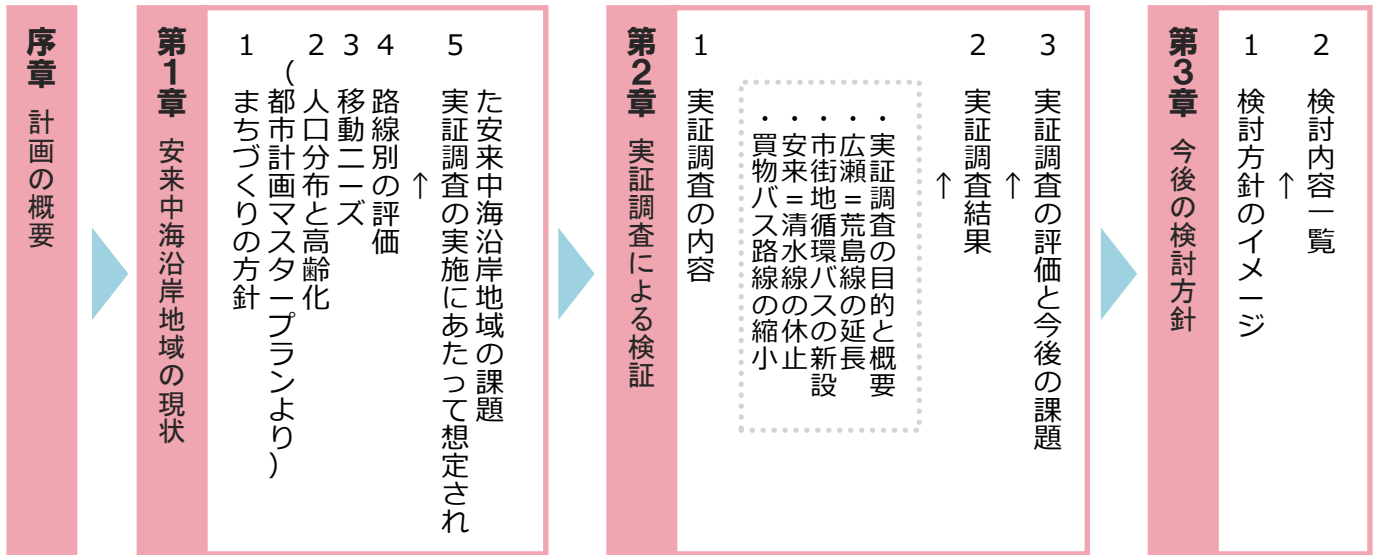
実証調査の結果を踏まえ、平成27年度以降に再度実証的な運行を行い、具体的な計画を策定



▲本計画の位置づけ

▲安来市の地域区分
(安来市地域公共交通連携計画より)

3 実証調査の流れと本書の構成



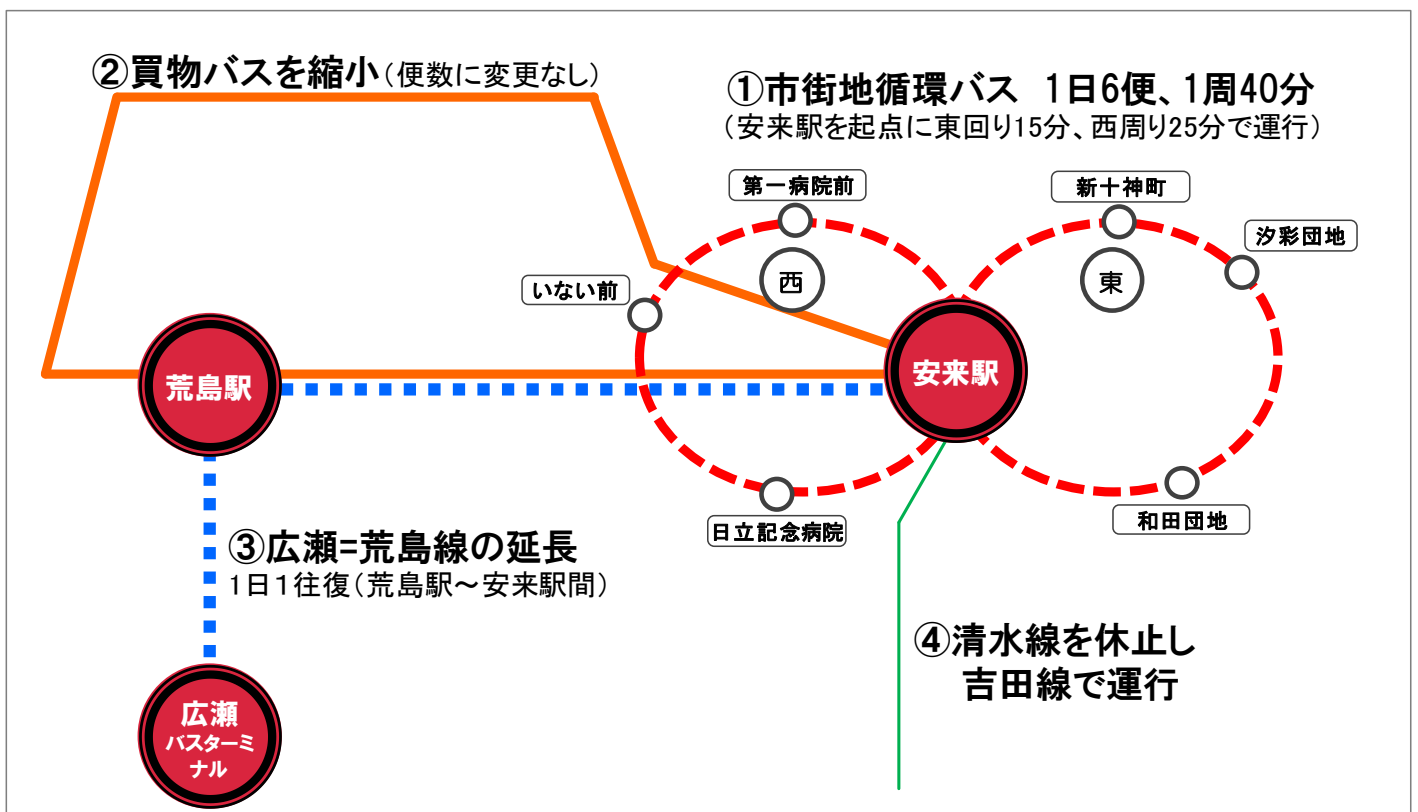
4 実証調査の内容

実証調査の目的

医療施設や商業施設および各路線が集積する市街地での回遊促進、高齢化が進む周辺団地への対応および安来中海沿岸地域の利便性向上のために、市街地循環バスの運行と既存路線の見直しについて実証調査を行います。

- ① 新たに市街地循環バスの運行を行い、周辺住民団地と医療施設や商業施設を結ぶことでの回遊促進と既存路線との接続環境を検証します
- ② 市街地循環バス運行に伴い、買い物バス路線を縮小し、接続環境を検証します。
- ③ 市街地循環バス運行に伴い、広瀬=荒島線の一部を安来市街地まで延長し、広域的な移動ニーズを検証します。
- ④ 安来=清水線を休止し、安来=吉田線でカバーすることで、路線の見直しについて検証します。

実証調査期間：平成 26 年 10 月 1 日～11 月 30 日（2ヶ月間）

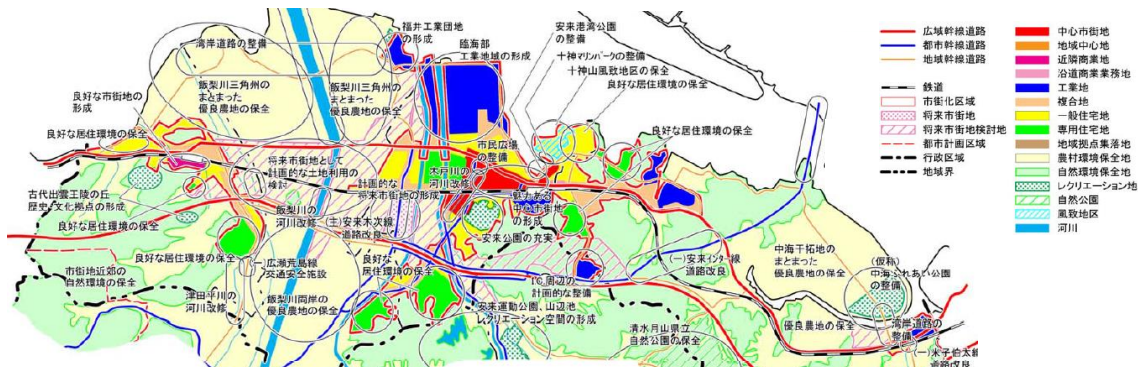


5 実証調査の評価と今後の安来中海沿岸地域の課題

1. 市街地内回遊を促進するサービスの必要性の確認

実証調査では、2ヶ月という短期間にも関わらず市街地循環バスの利用者は徐々に増加しており、今後より一層進むと考えられる高齢化を前に、市民も市街地循環バスの必要性を感じていることが確認されました。

また、すでに市街地の拡大が進む飯島町周辺や、バイパス整備・市民会館建設により拡大が想定される切川町周辺への回遊性も見据えれば、現行の買い物バスを見直し、市街地循環バスと組み合わせた新たなサービスが必要であると考えられます。



▲安来中海沿岸地域の土地利用方針（安来市都市計画マスタープランより）

2. 利用者ニーズへの対応

市街地循環バスは、買い物や通院の他、公共施設の利用や余暇活動等の目的で利用され、平日のみならず土日においても利用される結果となりました。こうした生活に即したダイヤ設定が今後必要です。

ルートを縮小して運行した買い物バスでは、行きたい施設に行けなくなったという声が多かったため、ルートの見直しが必要です。

他の路線・JR等との接続や待合環境などにも改善の余地があり、今後見直しを行いながら、より利用しやすいサービスの検討が必要です。

3. 荒島駅での乗継・待合環境の改善

拠点間の移動利便性向上を目的に延長した広瀬＝荒島線（荒島駅～安来駅間）では、利用者が非常に少ない結果となりました。また、今回の調査で、荒島駅において通学や買物、余暇活動など、平日・土日を問わず、JRとの乗り継ぎ利用がすでになされているのに対し、日ノ丸バスとの乗り継ぎ利用は少ない傾向にありました。

接続状況を改善することで、移動の選択肢が増え、利用者のニーズに対応しやすくなる可能性があります。それに併せて、乗り継ぎが苦にならないよう待合環境の整備が必要です。

4. 交通空白地域の解消

荒島・飯梨区域の居住者は、広域的な移動ニーズがありますが、バス停から離れており、路線の延長では対応が難しく、交通空白地域として課題解決する必要があります。また、赤江区域にも同様のエリアがあり今後の検討課題です。

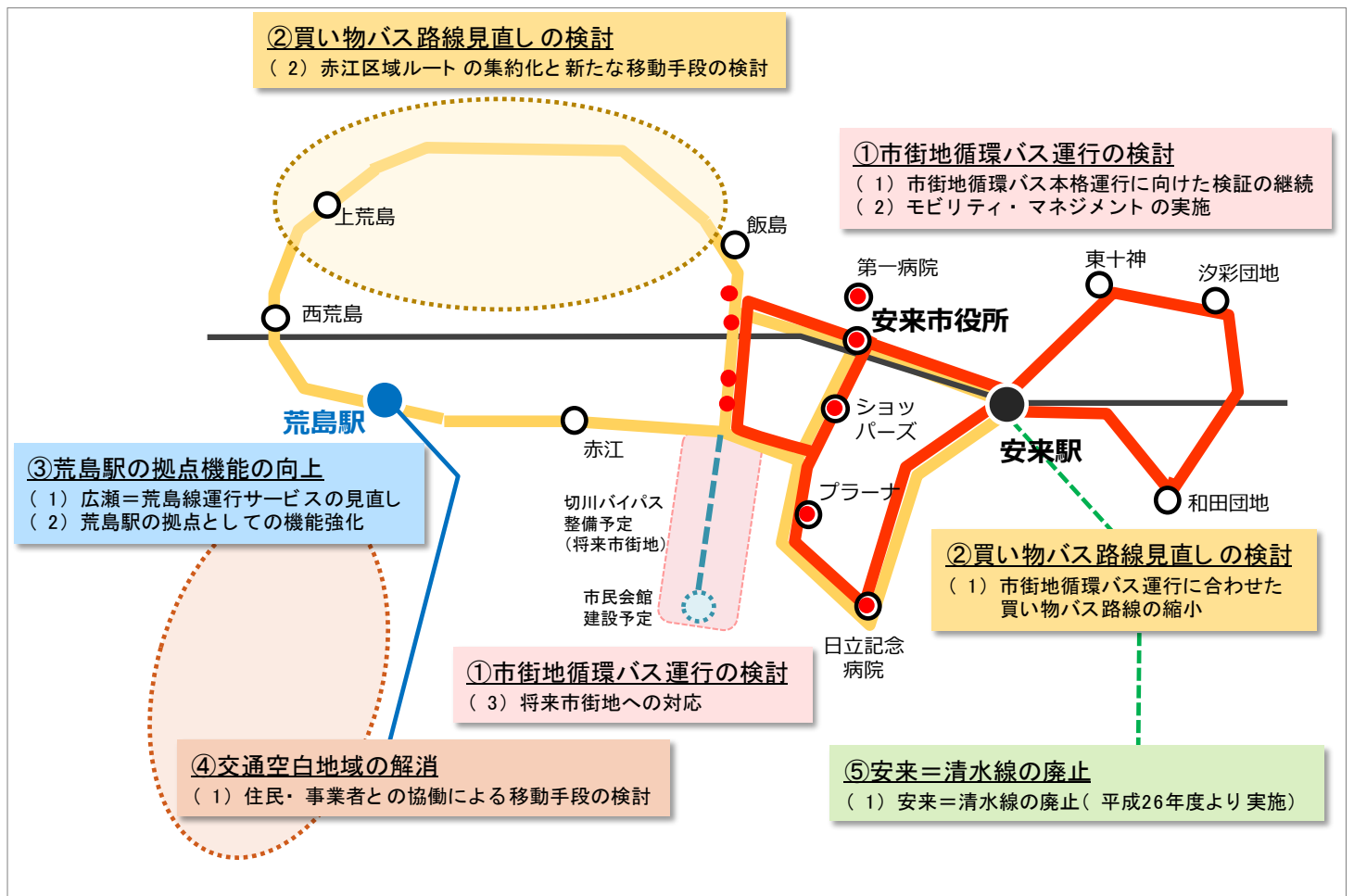
5. 安来＝清水線の見直し

利用者がこれまで極めて少なかった安来＝清水線を休止し、安来＝吉田線でカバーした運行では、土曜日の運行も可能となり運行の効率化と同時に利用者の増加が期待できます。

観光需要への対応については、観光客がより利用しやすい新たなサービスの提供を検討する必要があります。

6 今後の検討方針

今後の検討方針のイメージ



検討内容一覧

①市街地循環バス運行の検討

- (1) 市街地循環バス本格運行に向けた検証の継続
- (2) モビリティ・マネジメントの実施
- (3) 将来市街地への対応

②買い物バス路線見直しの検討

- (1) 市街地循環バス運行に合わせた買い物バス路線の縮小
- (2) 赤江区域ルート の集約化と新たな移動手段の検討

③荒島駅の拠点機能の向上

- (1) 広瀬＝荒島線運行サービスの見直し
- (2) 荒島駅の拠点としての機能強化

④交通空白地域解消の検討

- (1) 住民・事業者との協働による移動手段の検討

⑤安来＝清水線の廃止

- (1) 安来＝清水線の廃止(平成26年度より実施)

■発行日 平成27年3月

■発行 安来市地域公共交通会議・安来市

■編集 安来市 市民生活部 市民参画課

〒692-8686 島根県安来市安来町878-2 電話 0854-23-3069